

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平成22年度病虫害発生予報第3号

平成22年6月1日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 イネミズゾウムシ ニカメイガ イネドロオイムシ	並 — — — — — — 並	並 少 並 並 並 やや少 並 並
ジャガイモ	疫病	並	並
モモ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— やや遅 — — やや遅 —	並 やや多 やや少 やや多 やや少 多
ブドウ	べと病 うどんこ病 フタテンヒメヨコバイ	やや遅 やや遅 —	並 並 並
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	— — —	やや多 やや多 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— やや遅 並	並 やや少 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	やや遅 —	やや少 並
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	やや少 やや少 並
キク	白さび病 ナミハダニ	— —	やや少 やや少

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期は平年よりやや遅かった。生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は低く、降水量は平年並か少ないとされており、降水量は発病を助長する気象条件ではない。しかし、気温が低温で推移し、6月下旬に曇りや雨の日が多い場合は発生を助長する要因となる。

防除上の参考事項

ア. 中北部地帯においては、育苗箱施用剤による防除が普及しているが、育苗箱施用剤の残効は40～60日とされている。5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果がなくなるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

(2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ (第1世代成虫) 少
縞葉枯病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月の越冬世代成虫及び第1世代幼虫の発生量は計29頭で、平年(203.6頭)より少なかった。本虫の発生源となる麦圃場においても発生量は2頭で、平年(11.4頭)より少なかった。

イ. 縞葉枯病については、媒介虫であるヒメトビウンカの保毒虫率が平年より高いことから、発生量は平年並と考えられる。

ウ. 平成22年度植物防疫情報第2号参照。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ (第1世代成虫) 並
萎縮病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月の越冬世代成虫の発生量は9頭で、平年(24.1頭)より少なかった。第1世代幼虫発生量は23頭で、平年(30.2頭)並であった。

イ. 萎縮病は近年少発生が続いている。媒介虫であるツマグロヨコバイの発生量が平年並であることから、平年並に少ないと考えられる。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月26日～27日の巡回調査によると、成虫による被害発生圃場率は25.5%で平年(26.2%)並であり、株当たり成虫数は0.001頭で平年(0.023頭)より少なかった。

(5) ニカメイガ (越冬世代成虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月5半旬まで、赤磐市のフェロモントラップへの飛来を認めていない。

(6) イネドロオイムシ

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月26日～27日の巡回調査において、発生を認めなかった。

イ. 育苗箱施用剤及び本田施用剤が広く普及しており、近年少発生が続いている。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査において、発生を認めなかった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされている。低温は発生を助長する要因となるが、降雨が少ない場合は抑制される。

防除上の参考事項

ア. 初発生後は、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病 (早生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24日の巡回調査によると、芽枯れ、枝病斑の発生量は平年並であり、幼果への感染量も平年並と考えられる。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされている。低温は発生を助長する要因となるが、降雨が少ない場合は抑制される。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや多

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 5月24日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、全般的に平年よりやや少なかった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日 (果実生長第2期以降は20日) とされている。5月の降水量は平年より多かったため、幼果への感染は平年より多く、今後発病が増加すると考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24日の巡回調査によると、発生圃場率は3.4%で、平年(9.9%)より低かった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する気象条件ではない。しかし、梅雨入り後の連続降雨や風を伴う降雨等で発病が助長される恐れがある。

(4) モモハモグリガ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、第1世代成虫の初飛来日は5月15日で平年（5月12日）よりやや遅く、5月1～5半旬の誘殺数は106頭で平年（69.4頭）よりやや多かった。

イ. 5月22日の巡回調査によると、発生圃場率は7.1%で、平年（1.7%）より高かった。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、第1世代成虫とみられるまとまった誘殺は、5月5半旬まで認められていない（第1世代成虫初飛来日平年値は5月22日）。

イ. 5月24日の巡回調査によると、心折れの発生は認められず、被害発生圃場率は平年（3.5%）より低かった。

ウ. 5月28日の1か月予報によると、気温は低いとされており、本虫の増殖に好適な条件ではない。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は、148頭で平年（23.2頭）より多い。

イ. 前年のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式から、チャバネアオカメムシの越冬世代の予察灯誘殺数（4～7月）は、赤磐市及び津山市ともに平年より多いと予測される。

ウ. 平成22年度病害虫発生予察注意報第1号参照。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育（開花期）は平年よりやや遅く推移している。

イ. 県予察圃場のベリーA（無被覆栽培）において、5月26日まで発生を認めていない（平年：6月4日）。

ウ. 5月24日の巡回調査において、発生を認めなかった。

エ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する気象条件ではない。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ（ピオーネ）の生育（開花期）は平年よりやや遅く推移している。

イ. 4～5月の日照時間は平年より少なく、本病の発生に抑制的な気象条件であった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は低く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多いとされている。本病は少雨多照条件で発病が多いとされており、発病をやや助長する気象条件である。

(3) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24日の巡回調査によると、被害発生圃場率は75.0%で平年（10.2%）より高いものの、被害程度は軽微であった。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月12日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は5.9%で、過去10年間で2番目に高かった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされている。低温は発生を助長する要因となるが、降雨が少ない場合は抑制される。

防除上の参考事項

ア. 初発生後は、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月12日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は38.5%で、過去10年間で3番目に高かった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされている。低温は発生を助長する要因となるが、降雨が少ない場合は抑制される。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月12日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は41.2%で、平年並（過去10年間で4番目に高い）であった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 施設内では、多湿にならないように換気する。

イ. 肥切れすると発病が多くなるので、適切な肥培管理をする。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は37.5%で、平年並（過去10年間で4番目に高い）であった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査において発生を認めず、発生圃場率は過去10年間で最も低かった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

防除上の参考事項

ア. 施設内では、多湿にならないように換気する。

イ. 被害葉は初期に除去し、処分する。

ウ. 肥切れや窒素質肥料の過用を避け、適切な肥培管理をする。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査において、発生を認めなかった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査において、発生を認めなかった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病をやや抑制する条件である。

(2) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月1～5半旬のフェロモントラップへの誘殺数は、赤磐市では51頭で平年(60.7頭)並であった。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少
モザイク病 やや少

予報の根拠

ア. 5月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は、赤磐市では221頭で平年(394.3頭)よりやや少なかった。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年よりやや少なく、モザイク病の発生は平年並であった。

ウ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は低く、降水量は平年並か少ないとされており、特にアブラムシ類の発生を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は低く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発生を助長する条件ではない。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は19.0%で、過去10年間で2番目に低かった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は平年より低く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 5月28日の季節予報によると、6月の気温は低く、降水量は平年並か少ないとされており、特に発生を助長する条件ではない。

この情報は、農林水産総合センターホームページでも公開しています。アドレスは、

http://www1.pref.okayama.jp/soshiki/kakubu.html?sec_sec1=22

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 テ レ ホ ン サ ー ビ ス

岡山県病害虫防除所では、主要病害虫の発生状況や防除に関する情報を迅速にお知らせするために、テレホンサービスを実施しております。気軽にご利用ください。

電話：086-955-2224